

# 広報 あかいけ

59年

6月

No.257

発行所 赤池町役場 編集 総務課 文書広報係 ☎(代表)2004

印刷所 赤池印刷 毎月1回発行



町民体育祭仮装行列

(とじて保存してください)

## 初夏

川面には、初夏の太陽がキラキラ光り、若葉をわたる風がすがすがしい。素足の快い季節。

5月20日には、第23回町民体育祭が3千人の参加で盛大に行われました。

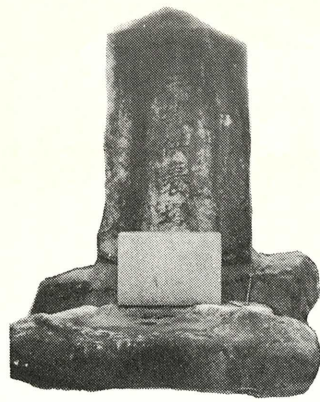
今年は、27の地区公民館が参加、猿畑地区公民館が2連勝を飾り、2位は大浦地区公民館、3位は初出場の二区地区公民館、また4位に三区地区公民館

と上野パワーが爆発。仮装行列も22地区が参加し、それぞれ苦心の作品で大会に花を添えました。

「さみだれ」は漢字で「五月雨」と書きますが、この五月は旧暦。

今年は5月31日から6月28日までになります。暦の上の「入梅」は6月11日で「さみだれ」といえば梅雨期の長雨を指すわけです。

6月は『土砂災害防止月間』、あなたの住んでいるところは安全ですか、梅雨は間近、今一度、雨に対する点検をされてみてはいかがでしょうか。



**⑧ 無縁塚(上)**  
市場小学校前の一帯には、中世のころの古墓や明治維新の墓が多くありましたが、これらは学校拡張とともに取り除かれ、今ではまったくそれらしい跡かたもなくなっています。

これらの多くの墓を取り除いたことについては、いろいろなうわさが伝えられています。市場小学校の校長が数代続いて亡くなったので大正13年、有志の人たちで無縁塚を建て、これを供養したといわれています。市場小学校体育館前にあります。



**⑪ 馬頭観音(上)**  
炭鉱の事故などで死んだ馬の供養のために建てられました。駅前通り稲荷神社横、駅前SSカメラ店裏にあります。

また、市場馬馬野の馬頭観音は慶応3年の建立とあります。

**⑬ 餓死者の碑(右)**

享年年間の大飢饉は、全国的に有名ですが、とくに17、18両年ははげしいものでした。伝えられるところによりますと、食べるものもなく、草木を食べては、わずかに餓えを忍んだとのことで当時の戸数75のうち190数名の餓死者を出したといわれ、惨劇を忍んでもあまりありません。

餓死者の追善供養のため建てられました。赤池貴船神社横にあります。

**⑥ 国境碑(右)**  
上野諏訪山の直方寄り、県道夏吉→直方線の直方市との境に立っています。「従東豊前国小倉領」ときざまれており、豊前と筑前の国境を示すものでした。



**⑤ 孝子善作の墓(右)**

孝子善作は子孫がはつきりしませんが、大変な親孝行もので、寛政7年、小笠原6代藩主忠苗から、「この者常に真実にして数年来奉公の給米をもって母に孝行いたせし者」として表賞されました。

新しくなった鋤木田の五区公民館から入って登りつめた鋤木田墓地の一角にあります。天保12年安永民助建立とあります。昔は、毎年小学生が先生に引率されてお参りしていました。



藩政道とした本した。陸路がありた谷を千代丸碑は数の建

**⑦ 六児像様(左)**

草場にあります。前に小川があり子どもたちが、その小川で六児像を洗って遊んでいたもので、通りかかった大人が注意すると、その人が腹痛を起こしたという伝説があります。六児像は子どもが大変好きで、せっかく子どもと遊んでいたのに、またひとりぼっちにしたのでおこったのであろうと言われていました。

現在では草場の人々が千燈明をしており、子どもの守り神であるともいわれています。



**⑩ 合葬の碑(右)**

筑豊でも屈指の大鉱山であった赤池炭鉱の最高年産量は昭和14年には、56万4、895トンに達し鉱員数も昭和19年には、3、853人にのぼりました。

事故による殉職者も数多く出、これらの殉職者の中で引取手のなかつた方がたの遺骨を埋葬するため建てられたのが合葬の碑で、赤池の松本墓地の一角にあります。



**⑨ 忠魂碑(上)**

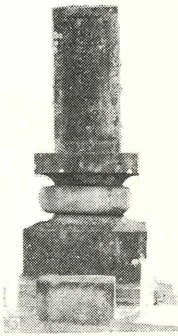
大正15年12月に建てられました。初めは発電所(今はない)の北方の台地麓にありましたが、後に猿田に移動されました。日清戦争からの戦没者を名記しています。当地出身の明治以降の全戦没者は400数柱にのぼり、郷土の礎石として永久に忘れてはならないものなのでしょう。



**⑫ 船頭の碑(右)**

船頭七蔵のお墓。七蔵は、この地方の船頭の祖として偉大な貢献をし、遠賀川、彦山川、中元寺川などの藩米の輸送はもろろん、いろいろな物資の船運にあたりました。

そして後に、石炭輸送に活躍した「川艦」の元祖でもあります。徳人原墓地に昭和29年に建てられました。



# 身近なところにもこんな歴史が

私たちの身近なところにも、いろいろな歴史を秘めた古蹟や遺蹟がたくさんあります。

今回は、その中から町内の代表的な石碑を数点ご紹介します。

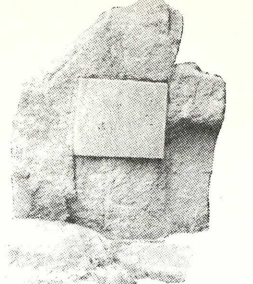
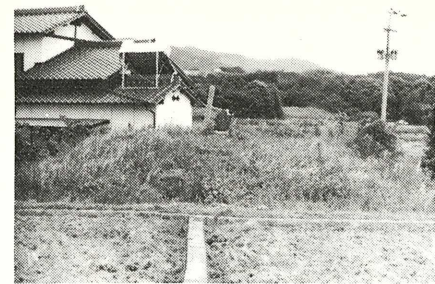
説明文については、赤池町史や昭和57年度婦人学級のみなさんが作成した資料から引用させていただきました。

若葉・青葉の季節。あなたも、ご自身の足でこれらの史蹟を訪ねてみてはいかがでしょうか。

## 町内石碑めぐり

**④ 修道碑(右)**

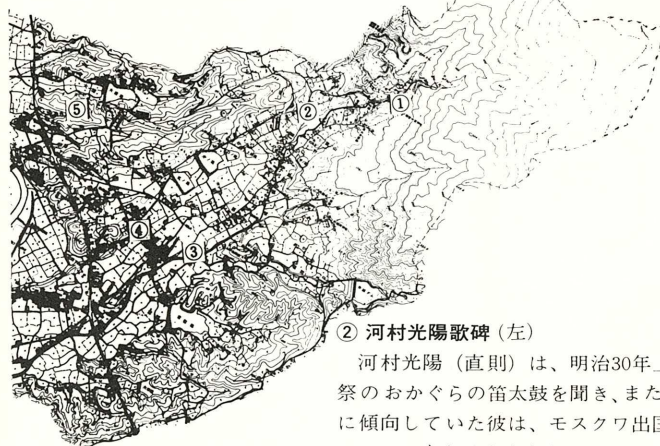
時代の道路は大名の参勤交代や旅人ので発達しましたが、赤池町には、そう街道すじには当るものはありませんで輸送はむしろ水運によっていました。として、弁城・原田・鋤木田・上境への道でしたが当地は南と北の深くえぐられ越す曲りくねった坂道の難所でした。坂・大久保坂などの名称があります。明治19年、香月釜治、山脇逸郎ほか多立とあります。



**③ 大塚(上)**  
上野原町にあります。数十年前までは墓標もあつたらしく、鷹取城落のとき、討死した人びとを集め、葬つたものと言われているが、応永の乱の戦死者を埋めたものとも言われています。

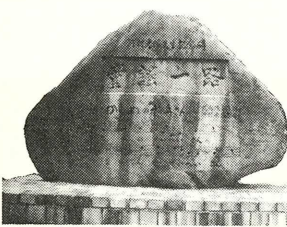
**① 池田柴酔翁の句碑(上)**  
福智中宮の参宮道(白糸の滝への道路より入る)の途中にあり「月の磴登る案内の影法師」の句が刻まれています。

翁は赤池に生まれ、市場校出身。福岡駅長を最後に退職後は、昭和32年より病気で入院するまで15年間、郷土赤池の後輩に俳句の指導をしました。碑は門下生によって昭和50年に建てられました。



**② 河村光陽歌碑(左)**

河村光陽(直則)は、明治30年上野里で生まれました。幼少の頃から、となりの福智下宮神社の祭のおかぐらの笛太鼓を聞き、また尺八を奏したりしていました。師範学校卒業後、ロシア国民学派に傾向していた彼は、モスクワ出国を志しましたが、母の説得で東京での教職につきました。教鞭をとるかたわら、日に5〜6時間もピアノに向い藤井清水に師事して作曲の勉強に打ち込み、『日本の子どもにふさわしいよい歌を』の信念で作曲した作品がNHK「子どもの時間」に取り上げられ、彼の曲が世に出るようになりました。



昭和8年の著書「日本旋律による童謡作曲の仕方」は当時時界の話題となりました。

昭和11年、教職を去り児童音楽への社会活動に専念し、作編曲のほか、合唱団やバイオリン指導などに力を尽くし、昭和21年50歳の生涯を閉じました。

昭和41年、彼の20周年に当り天郷青年の家に全国の有志の手で碑が立てられました。彼の代表作:「かもめの水兵さん」「うれしいひなまつり」「赤い帽子白い帽子」なかよしこみち」「グッドバイ」「船頭さん」とんがり帽子」など多数があります。

29日(金)	日本脳炎(町民会館)
27日(水)	心配ごと相談(福祉センター)
24日(日)	第4回町民卓球大会(市場小)
21日(木)	夏至
20日(水)	三種混合(町民会館)
19日(火)	日本脳炎(町民会館)
18日(月)	乳児保育相談(町民会館)
17日(日)	父の日 第14回町民バドミントン大会(町民会館)
15日(木)	日本脳炎(四区公民館)
13日(水)	日本脳炎(市場小)
12日(火)	日本脳炎(町民会館)
11日(月)	入梅
10日(日)	時の記念日(福祉センター)
7日(木)	計量記念日
5日(火)	環境週間
4日(月)	歯の衛生週間
3日(日)	第21回町民バレーボール大会(市場小)
1日(金)	水道週間、気象記念日、土砂災害防止月間

**6月**  
■歳時記■  
かたつむり

腹足類柄眼目の軟体動物。殻に引込むとなかなか出ないので「出ん出ん虫」とも。ほとんどが右巻き。殻のつけかたが左巻きの場合、雌雄同体で単に明暗を判別する能力がありません。